

いじめ防止強化月間（4月）における児童生徒の主体的な取組

●高等学校

挨拶運動

- ・生徒会役員と生徒指導部の教員がともに5日間ピンク色のリボンを胸につけて、校門で挨拶運動を実施した。
- ・「いじめ防止挨拶運動」を生徒や職員、PTA役員で取り組んでいる。今回は野球部、陸上部、サッカー部、卓球部が中心になりピンクのリボンをつけて、登校してくる生徒を迎えた。
- ・（登校・身だしなみ等の）学校重点指導に合わせ、挨拶運動と共に教職員・生徒が「ピンクシャツ運動」を展開した。
- ・生徒会の朝の挨拶運動と教職員の登下校指導において、生徒も教職員もピンクのシャツを着て、いじめ撲滅に取り組んだ。
- ・生徒会で登校時の「あいさつ運動」を行い、仲間意識の向上を図った。
- ・部活動単位でピンクシャツデーを設定し、ピンクのシャツや小物を身につけて、いじめ反対の意思表示をした。
- ・生徒会執行部が毎月1回行っている「朝のあいさつ運動」時に、執行役員がいじめに対して思っている気持ちを記入したピンク色のIDタグ（名札入れ）を首からさげて啓発活動を行った。

啓発活動

- ・4月の生活努力目標をいじめ防止月間「友だちは宝物」と設定し、HRや校内にいじめ防止の掲示物を貼り、全校生徒に周知した。
- ・対面式の場で、生徒会長が、「いじめを絶対に許さない」学校づくりについて全校生徒に呼びかけた。
- ・生徒会通信において、ピンクシャツデーの由来や取組を紹介した。
- ・ピンクのシャツについて始業式や朝の放送部による校内放送で説明し、いじめ撲滅を訴えた。
- ・生徒昇降口に、生徒会執行部が作成した標語を掲示した。

その他

- ・人権集会において、生徒会長より友だち作りの大切さについて話をした。
- ・生徒会役員が、いじめはどうしたらなくなると思うか話し合い、「あいさつ運動」をすることにより、生徒一人ひとりと顔見知りになり、なんでも話せるきっかけを作ることとした。
- ・生徒会主催の縦割りディスカッションで、上級生から1年生に向けて、SNS利用に関する失敗談やいじめ防止（SNS使用のマナー、周りに相談するなど）について発信した。
- ・対面式を生徒主体で企画・運営をし、調理実習（たこ焼き）を行う形式にした。この取組がいじめ防止の基盤作りの一助につながったと思われる。

●特別支援学校

挨拶運動

- ・児童生徒会で4月中の「あいさつ運動」のとき、ピンクのリボンやタイなどを身に着け、いじめ反対を呼びかけた。

啓発活動

- ・児童生徒会で「みんなともだち なかよく やさしく」の標語を考え、ポスターを作り、昇降口に掲示した。
- ・児童生徒会で年間の生活目標を考えた。いじめ防止月間についての説明を聞き、目標のひとつに「まいにちたのしく なかよく」という目標を設定することを話し合った。各クラスで分担し、生活目標もポスターを制作して廊下に掲示した。
- ・各クラスの児童数が1～3名であるため、週に1回学部全体で朝の会を行っている。この中で、日直が主導し、「友だちと仲良くしよう」等といった目標を、全員で元気よく唱和した。

その他

- ・(生徒会が) 対面式で、新入生・在校生が自己紹介したり互いに質問し合ったりする時間を持ち、互いを知り合う機会とした。
- ・児童・生徒会でいじめ問題に関する計画について話し合った。
- ・児童生徒会が全校集会を開いた。新入生と在校生の対面する場として設定し、幅広い友だちが楽しめるように内容を検討し実施した。児童生徒会役員として、「全校のために頑張る気持ち」や、「みんなで仲良く楽しむ」こと等をみんなに伝えた。その後、全校で児童生徒会の歌「ありがとうの花」を歌い、「あいさつの歌」でダンスをして、学部の枠を外した取組ができた。全校集会を開き、たくさんの友だちと交流することで、みんなが仲良くいじめのない学校になるよう児童生徒会が取り組んでいく。